



市議会定例会[6月]

提出議案の概要について



本物力こそ桑名力

令和元年6月議会の主な議案



本物力こそ桑名力

補正予算の概要

「一般会計補正予算（第2号）」

- ・ 風しんの感染拡大防止のための抗体検査・予防接種を緊急的に実施

「一般会計補正予算（第3号）ほか」

- ・ 道路や公共施設の老朽化による改修等の市民生活への対応
- ・ 消費税率引き上げに関連して実施する事業
- ・ 国、県等の補助採択を受けて実施する事業
- ・ 働き方改革を推進し、育児休業者への対応による働きやすい環境の整備（男性職員1名・女性職員6名）

補正予算の規模

	補正額
一般会計補正（第2号・第3号）	3億6,234万5千円
介護保険特別会計補正（第1号）	348万4千円

主な事業（一般会計補正（第2号））

・ 成人予防接種事業費（衛生費）

- ・ 風しんの感染拡大予防のため従来の予防接種に加え、抗体保有率の低い世代の男性に対し、抗体検査・予防接種を緊急的に実施する。



- ・ **コミュニティ支援事業助成金（総務費）**
 - ・ 宝くじの売り上げを財源として地域団体への助成を行う。
かおるヶ丘自治会（防犯灯・公民館備品等整備）
福江町自治会（防犯灯・石取祭装飾品整備）
- ・ **低所得者・子育て世帯向けプレミアム付商品券事業費（民生費）**
 - ・ 消費税の10%への引上げが消費に与える影響を緩和し、地域の消費を喚起・下支えするため、低所得者・子育て世帯対象にプレミアム付商品券の販売を行う。
- ・ **保育所管理運営事務費（民生費）**
 - ・ 令和元年10月より開始予定の幼児教育・保育の無償化の実施に係るシステム改修を行う。
- ・ **経営体育成支援事業費（農林水産業費）**
 - ・ 農業用ハウス強靱化緊急対策事業に基づき、農業用ハウスの補強や防風ネットの設置を支援するための補助金を計上する
- ・ **市道改良事業費（土木費）**
 - ・ 地元との合意形成に基づく橋梁拡幅工事および、平成30年度末の浸水対策調査結果より、特に浸水が多発している地区の浸水軽減策に着手する。

主な事業（一般会計補正（第3号））（続き）



本物力こそ桑名力

- ・ **インターネット対策推進事業費（教育費）**
 - ・ ネット対策地域スタートアップ実行委員会を組織し、外部有識者による講演や、児童と保護者が協働するワークショップ等を行う。
- ・ **施設維持補修費（教育費）**
 - ・ 陽和中学校体育館の天井材（見切り縁）が落下する事案があったことから、応急安全対策を行った後、施設修繕を行う。



本物力こそ桑名力

条例の制定及び改正など（14件）の主な議案

<条例の制定>

● 特殊詐欺根絶条例の制定

特殊詐欺の根絶に向けた取組みに関し、市の責務並びに市民等、事業者及び青少年の育成に携わる者の役割を明らかにするとともに、特殊詐欺の根絶に向けた取組みに関する基本的事項を定めることにより、市民の財産を守り、もって安心かつ安全な市民生活の確保に寄与するため条例を制定する。

※特殊詐欺に関する市の取組み等を定めた条例としては県内で初めて制定

● 桑名市福祉医療費の助成に関する条例の一部改正

小学校就学の始期に達するまでの者に係る医療費の窓口負担の無料化を行うため、所要の改正を行う。

● 桑名市立幼稚園条例の一部改正

子ども・子育て支援法の改正に伴い、幼稚園の利用者負担の無償化を実施するため、所要の改正を行う。

三者による
協定は東海
地区初!!

雇用対策協定を締結します!!

～本物力こそ、桑名力。～



The Kuwana Chamber of Commerce and Industry

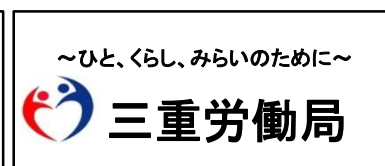
桑名商工会議所

～ひと、くらし、みらいのために～



三重労働局

雇用対策協定概要



【雇用対策協定の締結状況】

- ・三重労働局管内では、三重県、松阪市、四日市市、伊勢市、津市、鈴鹿市の順で協定が締結されている。
- ・全国的には、195の自治体において協定が締結されている。
※47都道府県132市15町1村(令和元年5月31日時点)
- ・商工会議所を含めた3者での協定締結は、全国的にもまれであり、**東海地区では初めて**となる。

目的

桑名市と桑名商工会議所及び三重労働局とが相互に連携し、桑名市域における雇用・労働環境の改善、就労支援の強化、市内企業の人材確保・成長発展を実現するための雇用対策に関する施策を総合的、効果的に推進します。

主な施策

- 若年者の就労促進及び自立支援策の推進
- 高年齢者の雇用対策の推進
- 子育て中の方の雇用対策の推進
- 障がい者の雇用対策の推進
- 労働環境の整備、向上
- その他の雇用対策の推進

協定により期待される効果

市と商工会議所及び労働局（ハローワーク）が、地域の課題に対する共通認識を持ち、「役割分担」、「連携方法」を明確化することが可能になり、また、連携策をパッケージ化することで、対外的な発信力の強化を図ることが可能になります。

【協定の締結式】

日時 令和元年6月4日 午後2時30分～

場所 桑名市役所 3階第2会議室

※ 桑名市、桑名商工会議所、三重労働局の3者で締結式を行います。

自動運転実証実験の実施について

～県内初の取組み～



本物力こそ 桑名力

令和元年6月4日

1. 目的

市民満足度調査結果

○前回調査と比較すると、特に公共交通分野において、施策の重要度が大幅に高まっているとともに、施策の満足度が低下している。

高齢化

○高齢化率は桑名市全体で25.99%（桑名市人口約14万人※2019.3時点）

○全国的にバス運転者の高齢化も進んでおり、今後の運転手不足も懸念されている。

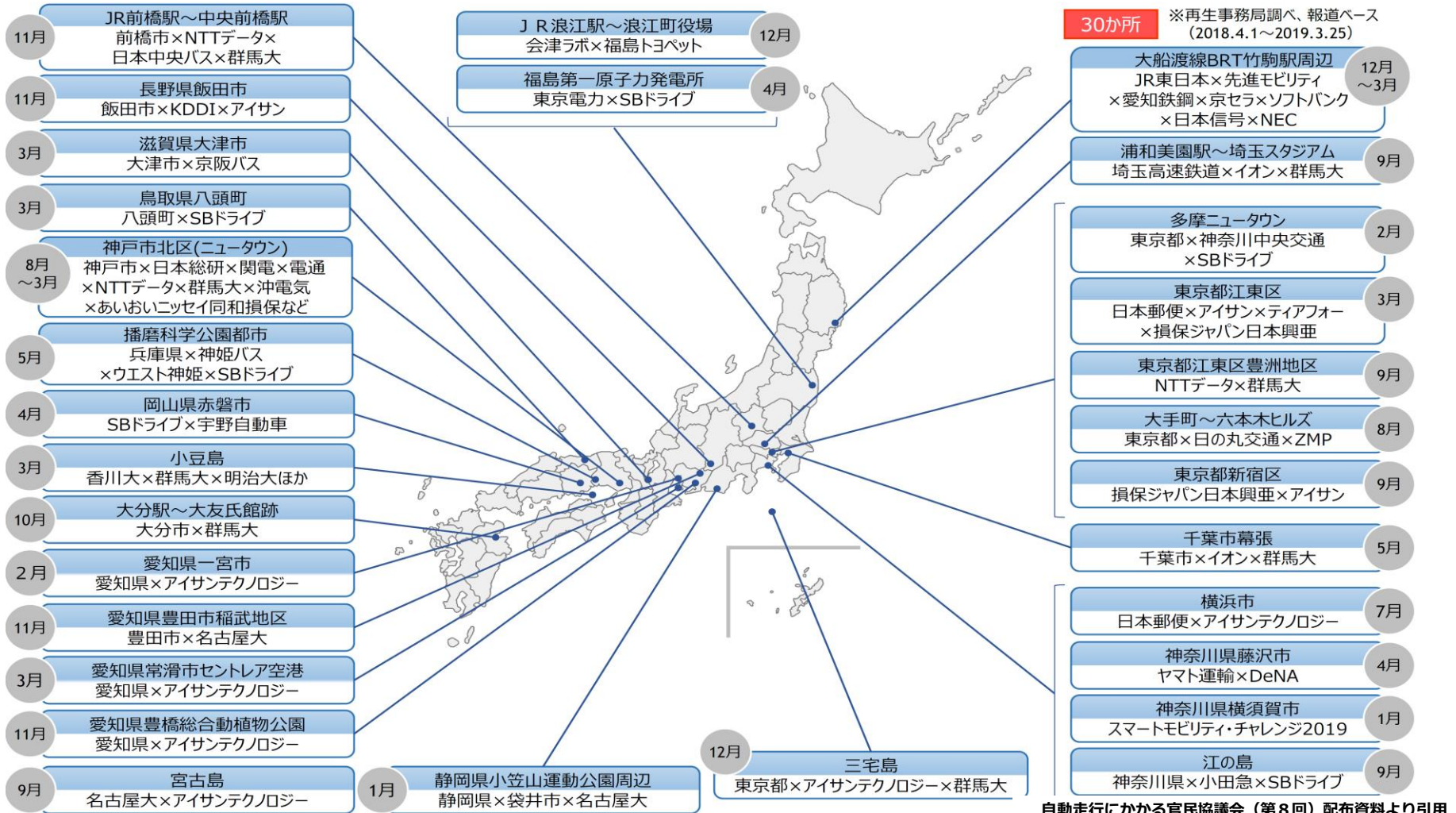
- ・桑名市中心市街地における交通ネットワークの機能強化
- ・地域の活性化促進
- ・地域住民の高齢化
- ・バス運転手の高齢化

- 従来のバスシステムに代わる新たな交通ネットワークの導入
- 高齢者の外出誘導を図る

桑名市における自動運転の検討



2. 地方自治体・民間の取組み



自動走行にかかる官民協議会 (第8回) 配布資料より引用

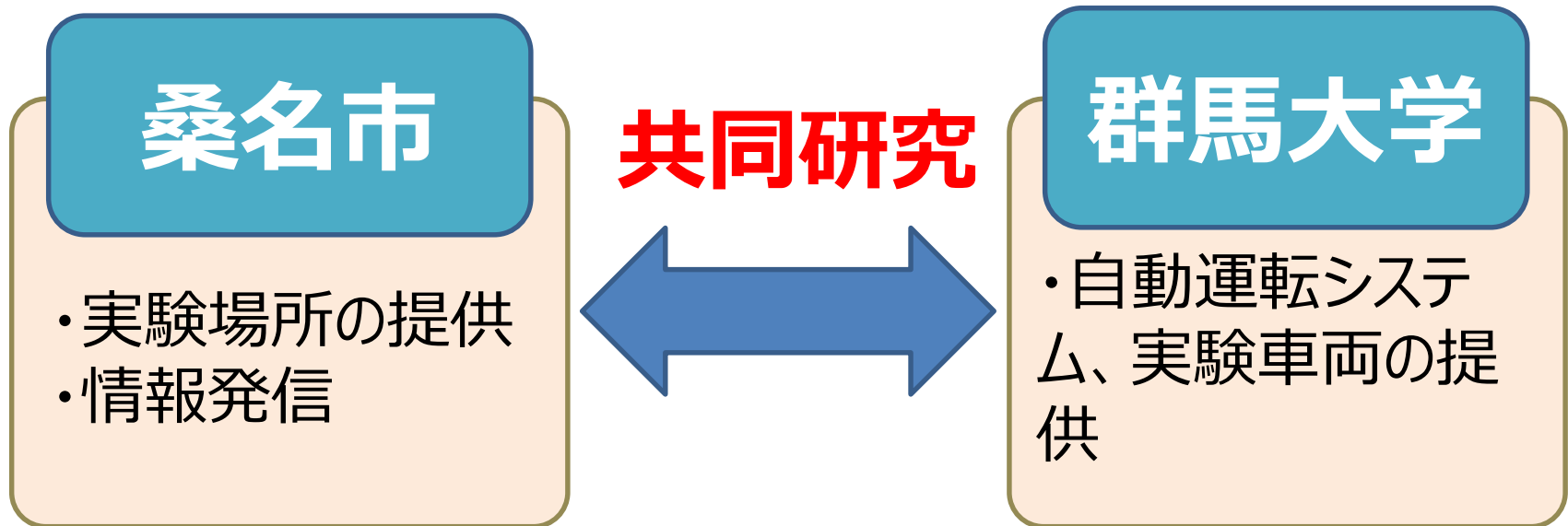
三重県においては、自動運転の実証実験は行われていないが、全国的には多くの実証実験が実施されている。



3. 概要

● 実証実験の概要

桑名市と群馬大学との共同研究により、同大学次世代モビリティ社会実装研究センターが研究する自動運転システム及び実験車両を活用し、実証実験を実施する。



4. 日程

① 準備期間

- 6月12日（水）～6月21日（金）
深夜など、人通りの少ない時間帯に公道における安全検証
- 6月22日（土）～6月27日（木）
日中の時間帯（通学時間除く）に公道における安全検証

② 実証実験（予定）

- 6月28日（金）～6月30日（日）
時間：午前10時～午後5時

<スケジュール>

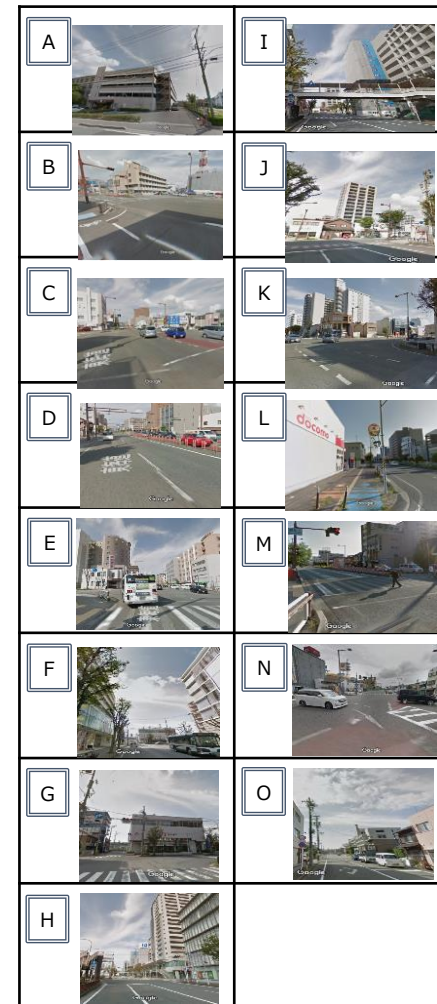
- | | |
|-------|--------------|
| 9時45分 | 出発式（6月28日のみ） |
| 10時 | 実証実験 第1便スタート |

※1日7便（予定）

乗降者：関係者のほか、一般公募を予定



5. 走行ルート



- ▶ 桑名市役所～桑名駅周辺 1周約 2 km
- ▶ 速度 時速 20 km (あくまで基準速度であり走行環境によって変化します)
- ▶ 交通状況によって手動に切り替えて走行する場合があります。

6. 実験車両

■ 車両概要

日野 ロングボデー・2ドアタイプSDG-HX9JLBE改

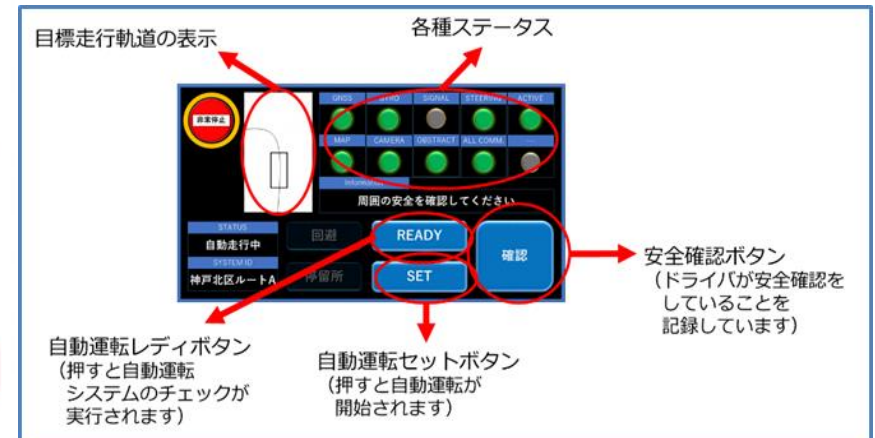
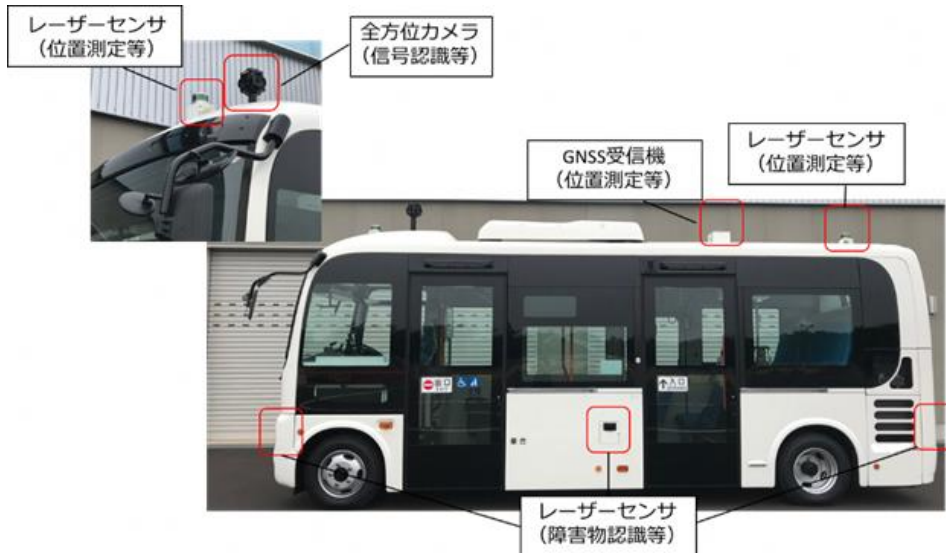
所有者：国立大学法人群馬大学

- ・乗車定員：36 [12] 人
- ・寸法：702 cm (L) × 208 cm (W) × 337 cm (H)
- ・車両重量：5,890 kg ・車両総重量：7,870 [6,550] kg

備考：乗車定員及び車両総重量の括弧外は立席を含めたすべての乗車装置を最大に利用した状態を、括弧内は立席を除く乗車装置を最大に利用した状態を示す。

■ 「実験用車両」であることを掲示し、自動運転実験走行を実施する。

■ 本実証実験は、自動運転レベル2で行い、走行中、常にテストドライバーが乗車し、緊急時等に直ちに必要な操作を行えるよう常に構える。





7. 今後の展望

実証実験



研究会の設立

実証実験結果を踏まえた課題検討

- ① 走行ルート及び技術的な課題の検証
- ② 実証実験アンケート結果の分析
- ③ 地域活性化に資する期待効果の整理



自動運転バスを軸とした、新たな交通ネットワーク構築と持続可能な交通手段の確保を目指します。

ふるさと納税に高校生手作り ボールペン feat.桑名工業高校



ふるさと納税に高校生手作りボールペン feat.桑名工業高校



経緯

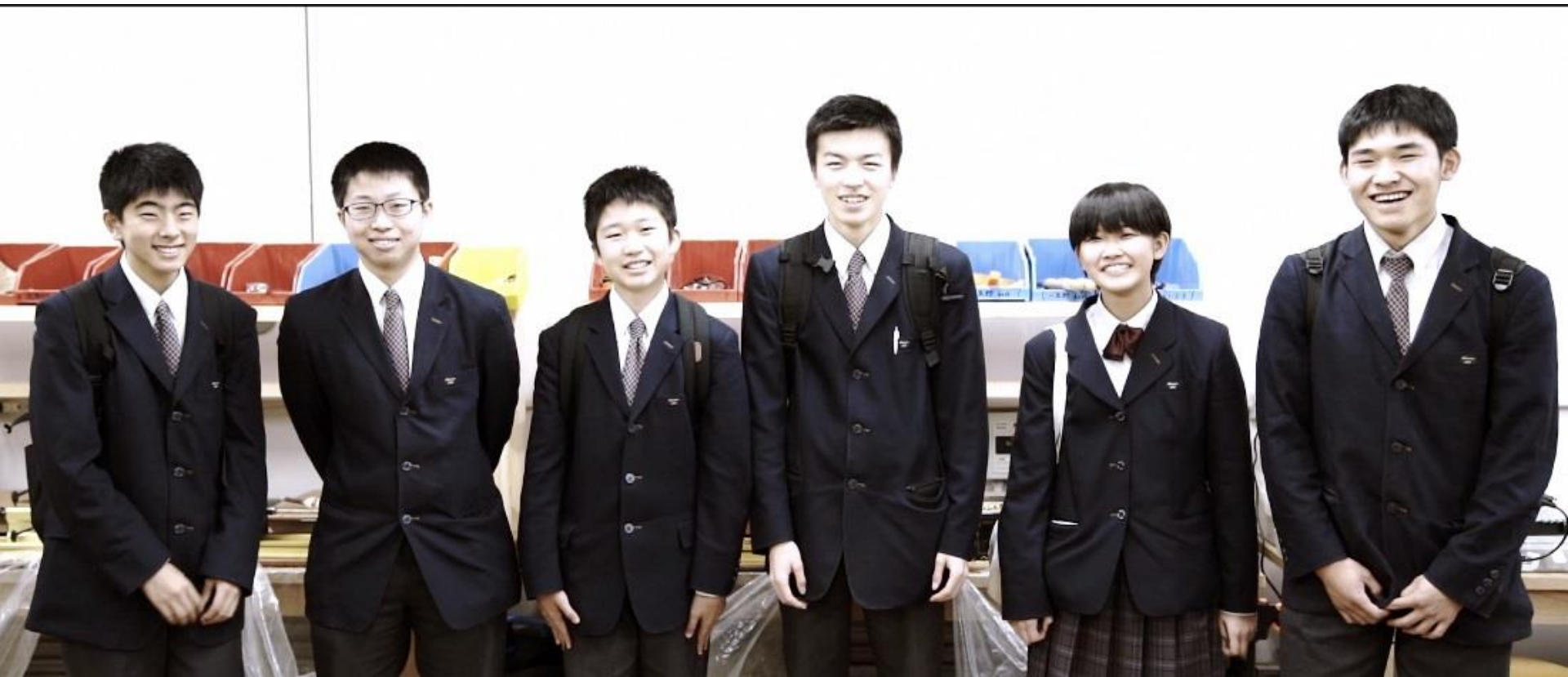
桑名工業高校では、小中学校や商業施設で開催している「ものづくり教室」をと
おして、廃材などを使ったボールペンを開発した。これを産官学が連携する「桑
名市産業観光まちづくり協議会」の支援を受けて商品化した。



ふるさと納税に高校生手作りボールペン feat.桑名工業高校



メンバー



ふるさと納税に高校生手作りボールペン feat.桑名工業高校



内容

高校生が廃材を一から削り成形した、地球環境に優しい商品をお届けします。レーザー加工機による名入れもすることができ、寄附者様にとって世界に一つだけの記念品になること間違いなし。

- ・記念品は1本お届けします。
- ・材質はクルミ・ヒノキ・サクラなどで、仕入れの状況によって異なります。
- ・1本1本デザインが異なります。
- ・材質、デザインを選ぶことはできません。
- ・名入れは、ゴシック体のみとなります。
- ・市販品のリフィル(替え芯)の交換も可能です。

ふるさと納税に高校生手作りボールペン feat.桑名工業高校



時 期

7月1日受付スタート

寄附額

5,000円(ボールペン1本)

製造元

桑名工業高校(桑名市大字芳ヶ崎1330番地の1)

協力・提供

桑名市産業観光まちづくり協議会
(会長 エイベックス株式会社)

「桑名ほんぱく」にも参加予定です。

ふるさと納税に高校生手作りボールペン feat.桑名工業高校



体験の様子



令和元年6月4日

ICT導入に関する検証結果について





ICT導入に関する実証実験

- 2040年頃に向けて、少子化による急速な人口減少と高齢化による深刻な労働力不足が予測されている。
- 行政においてもICTを活用した効率的な業務の執行が求められており、今回、下記の検証を行った。

1. AIを活用した保育所入所選考
2. 証明書発行窓口へのキオスク端末設置
3. 定型業務におけるRPA活用

1. AIを活用した保育所入所選考

概要

保育所入所選考について、各保育所への振り分け作業を、職員が手作業で行った場合と、AIで行った場合の比較検証を行った。

対象 : 一次申請 698人 二次申請 156人

項目 : 入所調整時間、入所率、一致率

入所調整時間
の比較



入所率の比較



一致率の比較

※協力事業者: 富士通株式会社 株式会社三重電子計算センター

実証実験の結果

～入所選考で効果が認められた！～

- 職員による手作業では延156時間に対し、AIは約1分
- 入所率は横並び、一致率は94.4%の結果

条 件	入所調整時間	一次入所率	二次入所率	手作業と一致率
手作業	156時間	89.54%	85.26%	—
A I	約1分	88.25%	83.97%	94.4%



課題

- 入所判定に関しては有効なツールであるが、検証を行ったAI入所選考システムと保育システムのメーカーが異なるため一体的な運用ができず、連携のための作業が必要であった

今後の取組予定

- 今年度、次期保育システムを選考し、来年度から新システムの稼働を予定しているため、新システムの動向により導入を検討

2. 証明書発行窓口へのキオスク端末設置



本物力こそ桑名力

概要

窓口における効率的な証明書発行についての検証を行った。

- ・住民票や印鑑証明などの証明発行窓口へキオスク端末(まどぐち君)を設置する
- ・市民の方がタッチパネルに必要事項を入力することで、手書きの申請書が不要となる

端末の特徴

- ・申請者は、タッチパネル式の端末へ必要事項を入力するため、手書きの申請書への記入が不要
- ・多言語（英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語）へ文字表示と音声案内による対応
- ・申請内容をもとに証明書が自動で出力され、職員は本人確認のみで、システム操作の必要がない
- ・印鑑登録カードである「くわな市民カード」の利用が可能

※協力事業者：富士通株式会社 株式会社三重電子計算センター



運用状況

運用期間 平成31年2月26日から6月28日（約4ヶ月）

※ 実績（平成31年2月26日～4月30日）

印鑑登録証明書

まどぐち君 (a)	窓口全体 (b)	割合 (a/b)
466	1,985	23 %

住民票

まどぐち君 (a)	窓口全体 (b)	割合 (a/b)
572	6,310	9 %

※利用割合の差は、住民票については、職員との対面で、いろいろと聞き(確認し)ながら取得される市民の方が多いため



課題

■ 今回の端末設置により、手書きの申請書を記入することなく証明書を取得することができるため、来庁者の利便性向上がはかれたものと思われるが、証明発行時に職員による確認作業が必須であり、職員負担数軽減に向けて、さらなる自動化の検討が必要である。

(コンビ交付や自動交付機のようなものとは違う)

今後の取組予定

■ 限られた人材(職員数)のなか広い視点でいかに住民サービスの質を維持・向上するか“最新のテクノロジー”の動向を注視し導入に向け検討する。

※限られた人材(職員数)で、効率よく窓口対応が可能なシステムを検討する。

3. 定型業務におけるRPA活用

概要

RPA (Robotic Process Automation) は、人が行うパソコン操作の一連作業を実行するソフトウェアであり、大量で定型的な繰り返し業務において職員負担が大きく削減され、作業工程やミスを減らすことが期待されている。

今回、市が行っている定型的な事務作業をRPAにより自動化し、業務時間の削減効果を検証した。(平成31年1月～4月)

●対象業務

No	業務	内容
1	軽自動車税申告書入力業務	軽自動車税協会から送付される登録データ(新規登録)を、RPAがシステムへ入力する業務。
2	保育料入金消込み及び日計データ作成業務	保育料の入金データを、RPAがシステムへ入力するとともに、エクセルで日計表を作成する業務。
3	支出命令書作成業務	毎月、定型で発生する支出作業を対象に、RPAが財務会計システムにおいて支出命令書を作成する業務。

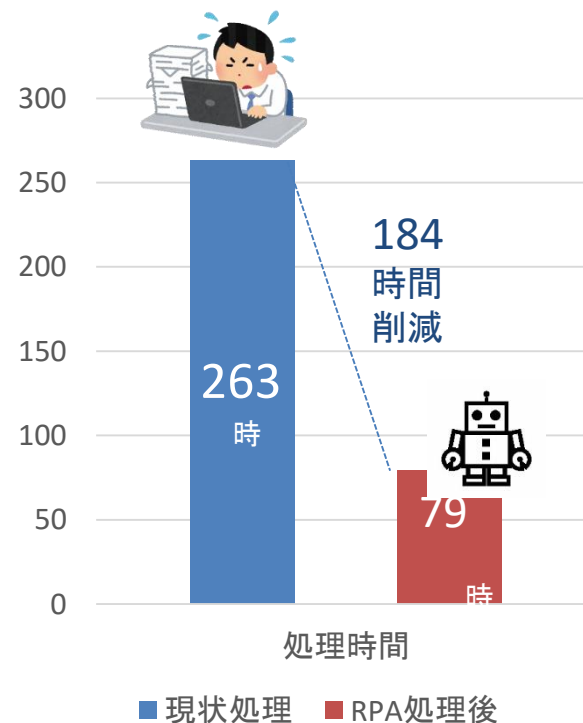
※協力事業者: 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ 日本電子計算株式会社 株式会社石川コンピュータ・センター

検証結果

RPA適用により、3業務全体の平均で年間概ね75%（184時間）の業務時間削減

No	業務	現状作業工数	改善後工数	削減率
1	軽自動車税申告書入力業務	200 h	67 h	66.7%
2	保育料入金消込み及び日計データ作成業務	21 h	4 h	80.0%
3	支出命令書作成業務 (対象:情報政策室)	42 h	8 h	80.0%
		263 h	79 h	75.6%

※改善可能な業務範囲における工数 ※全体の削減率は各業務の平均値





課題

- 現行業務の見直しを行うなど、業務プロセス全体の整理を行ったうえで、RPAを適用する必要がある
- RPAの操作には一定のスキルを要し、職員の育成が必要である
- 手書き文字はRPAを活用できないため、電子データ化する必要がある
- AI-OCRとRPAの連携による、申請からシステム入力までの自動化処理
 - ※AI-OCRによる手書き文字の電子化に関する検証を行ったところ、90%以上の正読率であった
さらに正読率を高めるためには、申請様式の見直しが必要（記述式 ⇒ 選択式 など）

今後の取組予定

- 検証を行った3業務について、試行段階から本番環境への適用
- 新規のRPA適用事業を検討し、対象業務の順次拡大
- RPAを活用できる職員の育成
- AI-OCRを活用した事務の効率化